

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和3年12月
海老名市立今泉中学校**

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

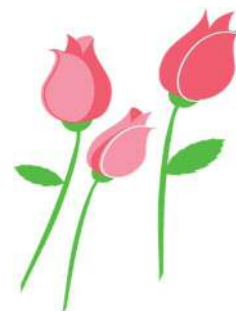
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



中学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・話し合いの話題や方向を捉えることができるかどうかをみる。
- ・質問の意図を捉えることができるかどうかをみる。
- ・話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができるかどうかをみる。
- ・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。
- ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫をすることができるかどうかをみる。
- ・文脈の中における語句の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる。
- ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているかどうかをみる。
- ・文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解しているかどうかをみる。
- ・相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかどうかをみる。
- ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 比較的にどの学習領域に対してもバランスよく知識の習得ができている。
- 特に話す・聞くの領域に関しては正答率が高く、日ごろの学習の成果が表れている。
- 文脈に即し、正しく漢字を読む問題の正答率が高い。

◆課題のある点

- 「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを書く」問題に対しての、全国平均を下回る正答率で無回答も多く、課題が残る。
- 文章問題において、動作主を問う問題や自分の考えを書く問題に苦手意識が感じられ課題が残る。
- 条件を満たし記述する問題で、条件を満たさずに解答しているものがあり、問題の意味を理解し、解答することに課題が残る。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 読書など、日常的に様々な文章に親しむ時間を持ち、語彙力・読解力の向上に取り組む。
- 条件作文など、文章を書く問題に取り組む。
- 様々な形態の問題に取り組む中で、多くの考え方や捉え方に気づくよう取り組む。

中学校 数学

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・整式の加法と減法の計算ができるかどうかをみる。
- ・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができるかどうかをみる。
- ・扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解しているかどうかをみる。
- ・関数の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・与えられたデータから中央値を求めることができるかどうかをみる。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。
- ・数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・相対度数の必要性和意味を理解しているかどうかをみる。
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
- ・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができるかどうかをみる。
- ・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解しているかどうかをみる。
- ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 「数と式」及び「資料の活用」の領域では、他の領域に比べて正答率が高く、学習が定着しているといえる。また、「図形」の領域も、神奈川県や全国正答率に比べて高い正答率となっている。

◆課題のある点

- 「関数」の領域は、神奈川県や全国正答率に比べやや低く、関数の意味を理解しているかを問う問題の正答率は、4割ほどである。また、各領域において、事象を数学的に解釈したり、データの傾向や図形の性質を見いだしたりして、それを数学的に表現、説明する問題に関しては、正答率が2～3割ほどである。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 正答率が高かった「数と式」の領域や「表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題」では、引き続き基礎を固めながら演習問題に数多くとりくむ。また、課題である「関数」の領域や、事象やデータを数学的に解釈し、表現、説明する問題に関しては、生徒に問いの発生を促し、既習の知識や技能を使って問題を解決していく場面を、さらに多く設定する。

生徒質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 「学校の授業以外に、月～金曜日に1日当たり2時間以上勉強している」と答えた生徒が全体の6割強を示し、県・全国平均を大きく上回っている。
- 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と答えた生徒が9割以上を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた」と答えた生徒が4割を超え、県・全国平均を上回っている。

◆本校の課題と思われるところ

- 「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と答えた生徒が全体の半数以上であるものの、県・全国平均を下回っている。
- 「家で、自分で計画を立てて学習している」と答えた生徒が全体の4割強であり、学習塾や家庭教師に教わっている以外の時間を、自ら計画し、学習に取り組むことができていない生徒が多い。

生活について

◆本校のよかったところ

- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことをきちんと守っている・だいたい守っている」と答えた生徒が全体の7割以上を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒が全体の76%以上を示し、県・全国平均を上回っている。

◆本校の課題と思われるところ

- 「毎日同じ時刻に寝ている・起きている」と答えた生徒が、いずれも県・全国平均を下回っている。
- 「普段(月曜から金曜日)1日当たりテレビゲーム(コンピュータゲーム,携帯式のゲーム,携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム)をする時間」が3時間を超える生徒が多く、県・全国平均を上回っている。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた生徒は3割強であり、県・全国平均を下回っている。

今後の具体的な取組について

- ◇学校教育目標「地域とともに生き、たくましく、しなやかに未来を拓く生徒の育成」を目指し、地域や家庭との連携をさらに深めていきます。
- ◇「自分を大切に、他の人を大切にする心の育成」を目指した教育活動を継続し、より一層充実した活動にしていきます。
- ◇情報リテラシー教育やICT機器を活用した取り組みをさらに進め、情報に流されず適切にそれを活用する能力を伸ばしていきます。また、保護者会や学校便り等で、家庭への協力を繰り返し呼びかけていきます。
- ◇系統的なキャリア教育の推進を目指し、生徒が自己や所属する集団の課題に気づき、その解決に向けて主体的に取り組もうとする姿勢の育成に努めていきます。

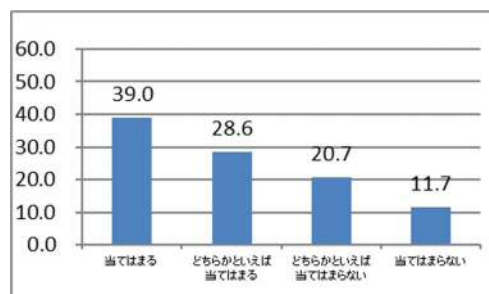
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の生徒質問紙の結果です。

1

お子さんと夢や目標について語り合しましょう。

夢や目標を明確に設定することで、生活を改善する力や学ぶ力が高まります。

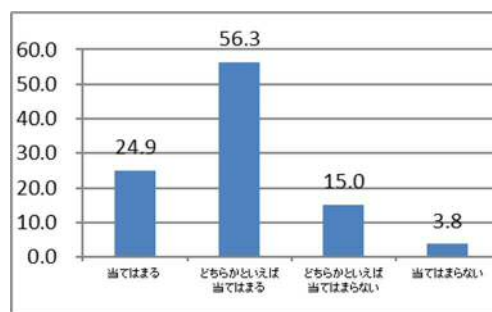


将来の夢や目標を持っていますか

2

規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

健康的で規則正しい生活は、元気に1日が始まり、生き生きと活動していくための基礎になります。今後も、ご家庭での協力をお願いします。

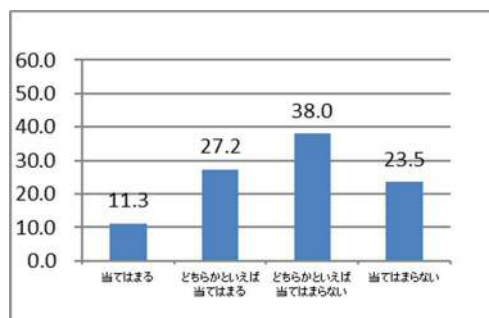


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

3

地域や社会について、家族で話し合しましょう。

少子高齢化、核家族化、地域の教育力の低下への対応として、地域が果たす役割への期待が大きくなっており、地域のつながりの重要性がますます高まっています。

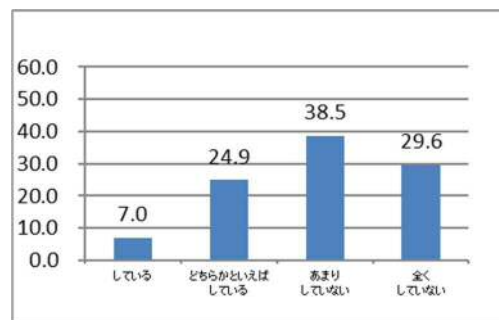


地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

4

地域の活動に積極的に参加しましょう。

経済・社会環境や人々の意識の変化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われています。地域におけるボランティアや市民活動が、新たなつながりとしてとても大切です。



今住んでいる地域の行事に参加していますか

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

